

商 況

販賣旬報 第92號 昭和4年5月21日

『外國の鐵會社は引合つて居るか』海外便り(英國の部)

此の問題は母國に於ける新業界に於て不可解にして且興味ある問題として取扱はれて居た。大陸及米國の分は追つて通信することゝし、差當り英國のみの分に就き吟味して見やう。

先づ英國に於ける各種工業と製作業との比較に於て其の『資本金に對する利益金の比率』を拾ひ上げて見ると下表の通りとなる。

Item	1925	1926	1927	1928	Item	1925	1926	1927	1928
Tobacco	19.6	19.4	19.7	19.2	Shipping	12.4	13.1	10.1	9.6
Brewing	17.8	17.6	16.2	15.3	Motor Industry	9.6	8.6	10.5	6.7
一般小賣業	10.2	10.6	11.9	12.5	Engineering	5.3	5.8	5.3	7.1
Cotton Textile	11.9	6.5	8.5	11.4	Railway	3.5	1.2	4.0	3.8
Oil and petroleum	15.3	20.7	17.4	11.3	Coal, Steel, Iron	0.2	-1.5	-0.4	0.8
Cycle Industry	16.6	13.7	12.7	10.7					

以上の表は、英國に於て製鐵鋼業が他の如何なる産業にも比して、最も恵まれぬ環境の下に置かれてある事實を物語つて居る。この事實を更に明瞭に裏書せしむる爲めに、差當り英國の諸工場中から、本所並に製鋼懇話會各社と同一又は眞似の作業を爲しつつある工場の收支總帳尻を下に摘記して見る。

社名	主要製品	1928	1927	社名	主要製品	1928	1927
Boldwins	一般鐵材、特板	(1) 7,477	(1) 192,971	Dorman, Long	一般鐵材	353,208	273,338
Barrow H. Steel	鈹鐵	78,556	(1) 109,249	Ebbow Vale Steel	薄板	(1) 23,716	(1) 464,645
Bolekow, Jaushan	工作業	29,103	261,778	Thomas, Richard	ブリキ	43,105	10,630
Cargo Fleet	鈹鐵及鋼板	92,834	88,355	United Steel Co.	一般鋼材	123,761	57,148
Consett Iron Ordy	中厚板	150,322	(1) 35,474	Stewart & Loyds	パイプ	440,742	186,912

英國製鋼業の目下の努力は、如何にして現在の苦境より脱出せんかと言ふ消極的努力であつて、進んで對外的に攻撃せむとする積極的努力と見ることは出來ぬ。然しながら、英國の製鋼業はその全部を擧げて輸出工業であるのであるから、彼等が現在の苦境から脱出した暁こそ、對外的に驚異すべき進展を爲した時と同一視して宜しいのである。遅緩にして鈍重、而も着々として進み、やがて最後的地歩を獲得することに巧みなる英國の國民性か、その國を支ふる重柱とも見るべき鐵鋼業を如何に合理化し如何に展開して行くであらうか。こゝしばらくは恐るゝに足らぬとしても、稍遠き將來に於ける進展振りを注視するの價値は失はぬであらう。(倫敦にて 鈴木參事)

8月渡先物協議會一棒鋼一舉4圓下び 5月11日名古屋商工會議所に於て8月渡先物協議會を開く、買手團提出の外注値段、希望値段及本所決定値段次の通りである。

品名\區分	沖着値段	河岸着値段	希望	本所決定値段	備考	歐洲鐵材相場としては大した
棒 鋼	7-7-0	98.23	96	97	4圓下び	變りないらしいが4月下旬東洋
小中型山形	7-0-6	94.83	93	95	2圓下び	向鋼材運賃5志下びが影響して
大型山形	6-16-6	92.73	92	93	2圓下び	c.i.f. priceは矢張り4志乃至6
工形	6-13-6	91.17	91	91	2圓下び	志見當を下び、爲替の上げと
溝形	時7-5-6 耗6-14-0	97.45 91.24	94	95	2圓下び	共に輸入採算として、前月決定
鋼板 4.5 耗	7-14-0	101.89	102	102	3圓下び	値に比し ² / ₃ 圓の下値となり市
" 3.2 耗	7-19-6	104.78	105	105	2圓下び	況は一層弱氣の模様であるが今
" 2.3 耗	8-1-6	110.82	111	111	3圓下び	回製鐵所の積遅れ高値品の解約
" 1.6 耗	8-4-6	112.40	112	112	3圓下び	が認めらるゝ事となつたので内
線 材	7-17-0	99.93	99	100	据置	地市況參酌論の強硬なる主張も
鉞力 100 封度	1-0-3	10.77	11.50	11.60	10錢上げ	なく唯僅に棒鋼1圓切つた丈で
" 170 封度	1-17-0	19.68	21-	21.10	据置	あとは大體輸入採算其儘を決定
黑板 13 枚 爲替 ¹ / ₁₆	14-5-0	179.36	177	177	6圓下び	

値とした、尤も溝型鋼に付ては今月から吋サイズと耗サイズとを區別する筈であつたが在伯林の鈴木參事から尙取調べる事項ある爲來月迄待つてくれとの電信が來たので今月も突込み値段とし、吋サイズ 97 圓耗サイズ 91 圓であるが形物好況により 95 圓とした。線材鉄力に始めから運賃による値下の範圍外に置かれ前者は据置、後者は 5 片高により 10 錢の値上げとなつた、薄鋼板は英國市場渾沌として大陸品も歸趨に迷ひ明確な quotation が得られず、不取敢前月より 5 志下げ 14 磅 5 志としたもの、後が恐しく且つ 8 月渡は夏枯季にも當るので特に 177 圓とした。

4 月中鋼材大陸市況 4 月の鐵鋼界は愈々需要期に入ることでもあり、色々の原因から今迄手控へられて居た注文が一時に出盛つて相當活況を呈するものと立會毎に期待されて居たが、其も遂に空しく裏切られて徹頭徹尾閑散に終始し、一般工業用燃料を始め熔鑛爐用炭の騰貴、勞銀の値上要求、屑鐵の供給不足等強氣材料の輻輳するものあるに拘らず一向に相場に現れず、目を追ふて軟化するの傾向さへ示した、即ち初旬 6、-2-6 を唱へられて居た棒鋼は 10 日には 6、-1-6 と下廻り、更に 18 日頃には 6、-1-0 と續落し、此處あたりが底ではあるまいかと思はれたが、需要は依然として起らず剩へ獨逸の競走も可成に強く感ぜられて軟化の氣配愈々濃く、下旬に到れば充分の注文を持つ 23 のメーカーを除いては新規注文の涉獵に逼られて 6、-0-0 迄の讓歩を餘儀なくせられた、此の相場は 1 月下旬の其から見れば 5 志方の開きを示して居るので一方に生産費高を控へてゐるメーカーは此以上相場の崩れるやうなことがあつてはと此處暫く必死の態であるが萬々台割れの氣使はあるまい。只工形市場は春の需要期に入つて幾分内地需要の擡頭を見せたが輸出に於ては必しも好轉せず、其の値上りは主として半製品の高値に影響されたのと半製品と同じ工場て製作されて居る 月日/品種 棒鋼 工形 大形山形 鋼板(%) ビレット(2') と云ふことに原因するのではあるまい 4 月 3 日 6-2-6 5-0-9 5-9-9 6-6-3 5-6-3 か、一方殆んど氣狂ひ相場を示して居た 4 月 10 日 6-1-6 5-0-9 5-9-0 6-5-9 5-6-3 半製品市場が 4 月に入るも依然昂騰の一 4 月 17 日 6-1-0 5-2-0 5-8-6 6-5-9 5-7-6 路を辿り中旬中は 5-7、-6、(ビレッ 4 月 24 日 6-0-0 5-2-0 5-7-9 6-5-9 5-7-0 ト 2 吋)を唱へられたが遂に之を高値として下旬に至り 5-7-0 と下廻つたことは興味ある問題として迎へられ、其の昂騰には寧ろ無關心であつた買手が此一寸した軟化に馬鹿に神経を尖らして其の成行を注視して居るといふのも面白い(Brussel Iron and Steel Exchange の相場上表の如し (f. o. b. アントワープ)

中型等邊山形鋼の生産協定 官民の協力により中型等邊山形鋼は全く自給自足の域に達し輸入を根絶せしむる趨勢を誘致せるも此の形勢を以て進む時は結局供給過剰に陥る惧あるを以て今回當所は日本鋼管及東海鋼業の申出でにより下記の要領にて生産協定をなすことに決定した。

- 1、範圍、2 耗乃至 4 吋 (50 mm 乃至 100 mm) の等邊山形鋼として規格品と否とを問はず。
但し自家用品、短尺、屑及艦船用規格品は此範圍外とす。
- 2、比率、市況により増減あるも大體昭和 3 年の需給を標準とし
製鐵所 34 % 日本鋼管 43 % 東海鋼業 23 % とす。
- 3、調節寸法、毎 3 ヶ月を 1 期とし其期間内に各製造家は其の生産高を割當高に比較し各員の比率を保つ。
- 4、期間、昭和 4 年 6 月 1 日より向 1 ヶ年間とし 1 期前の打合せにより更新繼續することあるべし、以上

5 月中旬線材、薄板、鉄力板、輸入速報

港別/品名	薄板		鉄力板		線材			
	0.7耗以下	上中 旬計		上中 旬計	B.W.G No. 5	其他	計	上中 旬計
神戸	1,441	1,784	641	1,297	3,802	405	4,207	7,294
濱横	881	1,267	1,688	2,622	558	—	558	558
計	2,322	3,051	2,329	3,919	4,360	405	4,765	7,852
上中旬計	3,051		3,919		6,842	1,010	7,852	

備考、神戸自 8 日 至 17 日、横濱自 7 日至 16 日

東西市況— 人氣不冴 今旬は稀有に恵まれたる昭和 3 年に於ける業界好轉の先驅たりし細丸の爆發があつた正に 1 週年に相當する。當時の活況は未だ生々しく腦裏に残つて居るが、それと現況を比較するに轉た隔世の感がある。好況に眩惑された無謀の輸入と過量の生産が蒔いた種は結局は現状の様な醜氣となつて生ひ茂り多大の犠牲を拂つて涕きの涙で刈り取らなければならないのである、此不況は寧ろ頂門の一針となつて將來反省の好材料となつたと思へ

ば強ち無益の事とも云へぬが、さりとしてあまりに高値な教訓ではある。弱り目に祟り目とても云ふべきか此際例の海外運賃の値下げも搦んで一擧に4圓下げの發表を餘儀された當所の先物値段により市場は益々軟化に傾むき、又金解禁の姿を雲煙の間に眺める様な新聞記事も見え彼は弱氣材料が蝟集したので市中は極度の不安に襲はれ殆んど例年の半分の取引もないと云はれる程の閑散故人氣至つて不冴、先行に對しても氣迷ひと云はれて居る。只去年の今頃は丸鋼の好調を袖手傍觀して居た鋼板が今は斯界の寵兒となつて丸鋼に羨まれるなど誠に有爲轉變の世想ではある。

東京市況——丸鋼 需給の調節を欠いて荷売れとなつた丸鋼は益々不人氣にてベース物の續落は何時止むべしとも見えず細丸もザリ安歩調で只中丸以上が餘喘を保つて居るのみである。

角、平鋼 前旬まで硬調であつた角も僅少の入荷により聊か頭打ち模様であるがまた品薄物もあり棒鋼の内では光つて居る、平は最早反撥の氣力もなく10圓の壘も保てず日増しに軟化に傾いて居ると云はれて居る。

型鋼 型物中例外として残されて居るのは蓋し等山である、1時はどうやら9圓50錢臺迄引き戻したものの近來は再び軟調を呈し、西の突飛な安値も影響して下押氣味である、不等山、溝、工共大した變化も見られず比較的高値の儘保合つて居る、只溝の3½×12が當所品の入荷により一擧に崩落したのが目立つ位である。

鋼板 人氣の焦點にある鋼板は今の業界に異彩を放つて成行としては豫期された11圓50錢の線を一擧に突破したと云はれるが特別の品掠れ物を除いては此邊が山と見え僅少の入荷によつてさへ兎角下放れた形勢にあると云はれて居る。

大阪市況——丸鋼 前旬以來下押の儘中旬取引閑散となり、更に本所8月渡値段97圓の下放れと相待つて此の弱氣三重奏は買手指値段次第の成行となり、實に慘落の跡甚だしいものがあり更に一路軟調を辿るであらうと言はれて居る

角鋼 品薄の爲依然變化なきも需要少きものゝ事として丸鋼の氣配に押され弱合保合。

平鋼 本所積運品の入荷もあり丸鋼の續落に災され一般に軟調に向ふものと見られて居る。

型鋼 棒鋼の慘落せるにも拘らず影響薄く、山形は前旬と不變。工形、溝形共に多少の商談ある模様にて硬化せるものもあり、寧ろ好轉の氣運に向ふものと言はれて居る。

鋼板 最早峠越しの感ありてさしも強調を告げし3.2×4×8は變らずと雖も製鐵所の入荷もあり一巡消化されたる形にて軟化の氣味あり½以上の厚物も川崎造船所の入荷と6月中に着荷の外註品も弗々其姿を見せ、1、20錢の下押しを見せた。獨り1.6×3×6の上放れが目立つて居る。

東京 大阪 市中相場

{東京 5月16日
{大阪 5月15日

丸	鋼		等邊山形鋼				工形鋼			
	東京	大阪	m/m	m/m	m/m	東京	大阪	東京	大阪	
6m/m	10-40	10-20	9×75×75	9-40	9-20	0-36"×5"×10	9-60	9-10		
9	10-30	9-90	9×130×130	9-70	10-20	鋼板				
12	10-20	"	12×130×130	"	10-50	1-6m/m×3'×6'	13-70	15-00		
19	9-65	9-50	15×150×150	"	10-20	1-6×4×8	11-90	11-80		
25	"	"				3-2×4×8	13-50	14-00		
50	10-30	11-00	不等邊山形鋼			3-2×5×10	12-30	12-00		
65	10-50	10-80	¾"×2"×3"	10-20	9-80	6-0×4×8	11-80	12-50		
			¾"×3×4	9-70	9-80	6-0×5×10	12-00	12-20		
			¾"×3½×5	10-20	10-70	9-0×4×8	11-30	11-30		
			¾"×4×6	9-70	9-70	9-0×5×10	"	11-00		
			½"×4×6	9-80	11-30	薄鋼板(13枚)				
			溝形鋼			米	71	71		
			¼"×2"×4"	11-50	10-30	英	70-5	70		
			0-312×2½×5	9-90	9-90	八幡	70	70		
			¾"×3×6	10-30	10-00	力板				
			¾"×3×8	"	9-70	米	{170lbs 23-20	22-30		
			¾"×3½×10	10-60	11-30	{100 12-30	12-40			
			¾"×3½×12	14-00	16-00	英	{170 22-70	21-50		
			工形鋼			{100 12-10	11-80			
			¾"×3"×6"	9-90	9-40	八幡	{170 22-70	21-90		
			¾"×6×12	10-60	11-00	{100 12-10	11-90			
			0-28×4×8	9-60	9-20	線材				
			0-35×5×12	10-60	10-30	No. 5#	102	98		

備考、單位 100 疋につき (置場渡値段)、但し薄板は 1 枚當り。線材は 1 疋當り。力板は 1 箱當り。

外國爲替市中相場

區分/月日	May 11	13	14	15	16	17	18	20
日 英	1/10-1/16	1/10-3/32	"	1/10-1/16	1/10-1/32	1/10-1/16	1/10-3/32	
日 米	44-5/8	44-1/16	"	44-5/8	44-9/16	44-5/8	44-1/16	
日 佛	11:30	"	"	"	"	"	"	

備考 日佛のみ正金建値。

昭和4年3月中民間棒鋼生産高表 (單位噸)

寸法	重量	寸法	重量	寸法	重量	寸法	重量	寸法	重量	寸法	重量
丸 鋼		丸 鋼		丸 鋼		丸 鋼		角 鋼		平 鋼	
5/16"	300	7/8	6,464	2	650	3 3/8	4	2	22	1 1/2	122
3/8	1,157	1	5,349	2 1/8	3	3 1/2	34	2 1/4	140	1 5/8	163
7/16	6	1 1/8	603	2 1/4	8	3 3/4	27	計	405	1 3/4	40
1/2	2,032	1 1/4	966	2 3/8	2	4	10	平 鋼		2	85
9/16	18	1 3/8	199	2 1/2	244	其他	675	1 3/16"	7	2 1/8-2 1/2	182
5/8	5,976	1 1/2	614	2 5/8	10	計	33,460	7/8	29	2 5/8-3	58
11/16	15	1 5/8	154	2 3/4	16	角 鋼		1	138	3 1/8-3 1/2	19
3/4	7,456	1 3/4	363	3	34	9/16"	205	1 1/8	3	3 5/8-4	83
13/16	25	1 7/8	33	3 1/4	13	1	40	1 1/4	83	其他	24
								計		計	1,036

昭和4年4月分契約高

區 分	官廳小計		民間小計		4 月中合計		
	噸數	金額	噸數	金額	噸數	金額	噸當
品 種							
大 條	6	682	7,233	697,679	7,239	698,361	96.47
中 條	—	—	6,526	645,251	6,526	645,251	98.87
小 條	—	—	9,910	1,008,485	9,910	1,008,485	101.76
鋼 板	26	4,407	9,655	979,672	9,681	984,079	101.65
重軌條及附屬品	309	35,091	4,092	403,997	4,201	439,088	99.77
輕軌條及附屬品	—	—	3,706	385,587	3,706	385,587	104.04
線 材	—	—	4,577	444,010	4,577	444,010	97.01
黑板、珪素鋼板、鉻力板	—	—	8,126	1,501,533	8,126	1,501,533	184.78
車軸、外輪、鍛成品	—	—	246	61,016	240	61,016	254.23
工具鋼、特殊鋼	—	—	62	5,780	62	5,780	93.23
其他鋼材	—	—	562	49,870	562	49,870	88.74
鋼 材 小 計	341	40,180	54,695	6,182,880	55,036	6,223,060	113.07
短尺及屑鋼	532	37,792	3,489	233,925	4,021	271,717	67.57
合 計	873	77,972	58,184	6,416,805	59,057	6,494,777	109.97
鋼片、鋼塊、シートバー	—	—	9,587	712,715	9,587	712,715	74.31
以 上 計	873	77,972	67,771	7,129,520	68,644	7,207,492	105.00
副 製 品	—	149,736	—	411,675	—	561,411	—
其 他	—	—	—	—	—	—	—

販賣旬報 第93號 昭和4年6月1日

海外便り『ワイヤロッド・シンジケートと日本市場』(第5便)

(1) 此の組合は線材の主要生産國を一國とし、其の生産の調節と國內國外に對する販賣の管理とを目的とし、1927年10月佛、獨、自及ルクセンブルク4國の製造家を網羅して組織せられた。其の中央機關をブラツセル市に有し、隨時開かるゝ會合に於て生産額の割當、販賣値段の協定其の他の事項が協議決定せられ、直に實行に移される。目下の處明にせられてあるのは、加盟各國間の生産割當額と常時變更される組合の賣價、並に割當超過生産に對する罰金と其の利用方法位のものに過ぎぬ。此の外に輸出及國內消費額別々の割當も協定せられてあるらしいが、目下の處外部よりの探聞を許されぬ。

(2) 此の組合には、他の同種のものと同様に若干の指定販賣人とも見るべき思惑商 (dealer) が專屬せしめられてある。海外輸出の如き殆ど此の思惑商を経由することを常態として居る。在外本邦輸入商も、大半は此の思惑商との交渉に依つて商談が取極められる。此の思惑商は組合から一定の口錢を貰ひ、組合の公表値段よりも安く賣らざるこ

とを條件として、之を取次ぐのである。従つて此の思惑商と在外本邦輸出商間に如何なる默契があらうとも、例へば日本向輸出値段の如きものに就て、組合公表値段より遠く離るゝことは出来ぬことになつてゐる。

(3) 此の組合の基礎は益々固きを加ふるであらう。然し組合の基礎の固いと言ふことは、日本から見て必ずしも強材料と見ることは出来ぬ。これは他の同種の組合乃至協定に就ても同様であるが、當初賣價の維持と言ふことが、斯かる團結を構成する主なる動因であつたものが、最近、生産並に販賣の合理化が進歩し來ると共に、他に對する競争機關たり且海外に於ける商權の保持を目的とする機關たらしめむとする傾向が甚だ著しくなつて來たからである。この組合は主要生産國が團結して世界の消費市場を管理し、他の生産者に對抗して其の商權を保持し且つは其の販路の擴張を企圖せむとするに在る。従つて此の種の組合は寧ろ強固なる争闘團體であり、競争機關である。他の生産者と商權を争はむとする機關である。従つて基礎の固いと言ふことは寧ろ、或る場合に於ては極端なる弱材料を提供するものと覺悟せねばならぬのである。

(4) 目下の處、此組合は殆ど全く世界の消費國を完全に近い迄に征服して居るものと見て大過ない。英國には線材はない。米國及カナダに若干の生産はありとしても到底この組合の敵ではない。況んや年額 17 萬噸の大量輸入を餘儀なくされつゝある日本の如きは、最も完全なる意味に於て此の組合の屬國に外ならぬ。日本に於ける線材の輸入者及消費者は常時この組合の活動に注意するの必要あるべく、又日本市場を此の組合の管理より逸脱せしむる爲めに如何なる方策をとるべきかの問題は、母國の鐵鋼界に残されたる重要事項の一たるを失はぬであらう。(ロンドンにて鈴木參事)

丸鋼市場軟化原因の一考察

(1) 鋼材界に於ける中樞たる丸鋼は昨年活況に引換へ、本年に入りてより市況頓に不振、月を重ねるに従ひて益々深刻味を加ふるものがある。其には勿論數ふべき幾多の原因はあらうが需給關係も其主要なる一であらう。

掲表中民間生産の 4 月分は調査未了の爲め 3 ケ月の平均を以て推定したものである。

(2) 今、上 4 ケ月に於ける昭和 3 年と 4 年とを比較するに昭和 3 年の上 4 ケ月の合計は同年總計の約 30% なるに本年 4 ケ月の合計は豫想する總消費數量の 45 萬噸に對し殆んど 6 ケ月に近き 48% となる、一步を譲つて本年總計 50 萬噸の消費を豫期しても猶 43% となる。

増減欄に就て見れば昨年同期に比し約 7 萬 4,000 噸の増加にて市場は明かに 2 ケ月分に近き數量を餘分に供給された理由である、不況の原因は之に胚胎して居るのではあるまいか。

(3) 所謂細丸は昨年は 5 月下旬に騰貴の傾向を現はしたるも暴騰の原因は寧ろ 5 月以後の供給不足に據るものにて 4 月迄はさしたる不足にてはなかりしものなり。それと本年を比較するに約 3 萬 4,000 噸の増加にて其著敷きものは勿論輸入である、丁度此輸入數量だけ無ければ市場の需給は恐らく順潮なるものと見られる、即ち細丸市場軟化の責任は輸入にあると云ふことが出来よう。ベース物は 4 萬噸以上の増加にて冬の不需期に月平均 1 萬噸づゝ去年よりは餘分に供給されたもので、如何に消費力の旺盛なるものとは云へ此數量にては消化不良を起さざるを得ないであらう、供給者が需給關係を充分念頭に置いて將來の調節を謀らなければ此立直りは中々困難なものではあるまいか。落潮滔々たる丸鋼の中にあつてどうやら保合状態を續けて居る太丸は見る通り去年より 1,000 餘噸の減少なのである。

(4) 輸出と云ふ彈力を持たない日本の鋼材界では業界隨一の消費力を持つ丸鋼でさへ僅少な不調和によつて去年の如き暴騰を演じ今年の如き軟調を誘致するのである、まして他の鋼材の如き貧弱なものに就ては餘程細心の注意を拂ふてなければ、製造家も消費者も共に苦しまなければならないのである。

上 4 ヶ月丸鋼需給比較表 單位噸

年月 區分 寸法	昭和 3 年					昭和 4 年					前年に比 し増(減)	
	1 月	2 月	3 月	4 月	計	1 月	2 月	3 月	4 月	計		
15 m/m 造	當所	5,652	6,528	7,587	5,445	25,212	6,890	6,890	8,515	7,103	29,398	4,186
	民間	5,730	9,201	8,819	7,287	31,037	9,644	8,332	11,483	(9,816)	39,275	8,238
	輸入	1,702	2,703	1,805	876	6,486	7,128	9,083	7,335	4,235	27,781	21,295
	計	12,484	18,432	182.11	13,608	62,735	23,662	24,305	27,333	21,154	96,454	33,719
16—48 m/m	當所	755	224	2,324	223	3,526	637	537	346	761	2,281	1,245
	民間	10,195	13,409	15,648	16,277	55,529	23,826	22,564	22,241	(22,877)	91,508	35,979
	輸入	738	904	1,228	341	3,211	2,479	2,443	2,795	2,171	9,888	6,677
	計	11,688	14,537	19,200	16,841	62,266	26,942	25,544	25,382	25,809	103,677	41,411

50 m/m 以上	當所	626	1,676	4,102	1,753	8,157	1,223	742	2,631	2,573	7,219	[938]
	民間輸入計	1,173	1,264	1,365	1,677	5,479	352	1,864	1,055	(1,090)	4,361	[1,118]
	計	565	987	830	415	2,797	1,110	958	891	655	3,614	817
	計	2,364	3,927	6,297	3,845	16,433	2,685	3,564	4,627	4,318	15,194	[1,239]
總計	當所	7,033	8,428	14,013	7,421	35,895	8,760	8,169	11,542	10,437	38,898	[2,003]
	民間輸入計	17,098	23,874	25,832	25,211	92,045	33,822	32,760	34,779	(33,783)	135,144	43,099
	計	2,405	4,594	3,863	1,632	12,494	10,717	12,484	11,021	7,061	41,283	28,789
	計	26,536	36,896	43,708	34,294	141,434	53,289	53,413	57,342	51,281	215,325	73,891

備考 1. ()は未調なるを以て前3ヶ月の平均により推定したるものとす。

2. []は減。

8月積先物賣行概況—申込激減

一、條鋼

(1) 賣出噸數

線材	1.2小形	3小形	1中形	2中形	1大形	2.3大形	軌條	計
100	300	300	700	600	1,000	1,500	—	4,500

(2) 揚地別申込噸數

	東京	大阪	名古屋	其他	計		東京	大阪	名古屋	其他	計
丸	1,928	1,188	177	326	3,519	不等邊	240	895	10	15	1,160
角	510	622	82	150	1,364	溝	320	978	21	31	1,350
平	865	715	231	569	2,380	工	145	770	15	10	940
等邊	360	747	32	47	1,186	計	4,268	5,915	568	1,148	11,899

(3) 引受噸數(括弧内は定期)

	線材	1.2小形	3小形	1中形	2中形	1大形	2.3大形	軌條	計
丸	184 (500)	—	1,145 (4,365)	—	314 (840)	—	—	—	1,613 (5,705)
角	—	205 (370)	—	85 (90)	240 (280)	—	—	—	530 (740)
平	—	837 (2,795)	—	406 (785)	—	—	—	—	1,243 (3,580)
等邊	—	183 (385)	171 (185)	—	105 (240)	72 (50)	351 (485)	—	882 (1,345)
不等邊	—	—	—	140 (110)	290 (450)	612 (885)	216 (310)	—	1,258 (1,755)
溝	—	—	—	91 (115)	50 (90)	466 (740)	360 (220)	(130)	967 (1,295)
工	—	—	—	—	—	—	650	—	650
計	184 (500)	1,225 (3,550)	1,316 (4,550)	722 (1,100)	999 (1,900)	1,150 (1,800)	1,577 (1,721)	(170) (300)	7,173 (15,421)

二、鋼板

(1) 賣出噸數

厚板	1中板	2中板	計
500	250	250	1,000

(2) 揚地別申込噸數

	東京	大阪	名古屋	其他	計
厚板	1,895	2,360	432	334	5,071
1中板	1,700	1,601	382	205	3,888
2中板	2,480	3,427	381	549	6,837
計	6,075	7,388	1,195	1,138	15,796

(3) 引受噸數(括弧内は定期)

厚板	1中板	2中板	計
500	250	250	1,000
—	(745)	(755)	(1,500)

三、鋳力板

(1) 賣出、申込噸數

市場向	賣出	申込
	300	860

實需向	賣出	申込
計	500	500
	800	1,360

(2) 引受噸數

	170封度	100封度	オイル サイズ	計
市場向	155.5	103	41.5	300
實需向	150.0	150	200.0	500
計	305.5	253	241.5	800

四、線材 (括弧内は定期)

(1) 賣出、申込、引受噸數

	賣出	申込	引受
線材	300	1,908	300
製釘材	3,000	3,000	3,000
計	3,300	4,908	3,300

五、黑板

賣出	1,000	申込	1,000	引受	1,000
----	-------	----	-------	----	-------

賣出と引受。

賣出當時は積運品の整理問題が懸案中であつたので、其整理を急ぐ意味から條鋼の先物は最小限度の賣出に留めた
が、其後同問題も解決したので引受數量は寧ろ先月より多くなつた。

申込數量

一時立直るかに見えた市場は諸種の弱氣材料の輻輳によつて軟調に移り特に其中堅たる丸鋼の崩落は他の鋼材まで
も引き込む氣勢となり、其氣配が影響して全般に申込の激減を來した。

條鋼。前月に比し殆んど半數に近い激減振りである。品種別に就て見れば例外的に不等邊が 500 吨許り増加した外
各品種共に減少であるが特に丸、角、等邊山が甚だしいものである、地方別に見ても「名古屋」及び「其他」が舊態を維
持して居る外は「東京」「大阪」共減少の跡顯著である。

鋼板。此好調も峠と見てか前月は 2 萬吨を突破したものが今月は漸減の傾向を見せる様になつた、即ち工場別では
厚板は増加したが 1、2 中板共減少し 1 中は殆んど半減である。

昭和 4 年度中のロール米突化の豫定 最近本所に於て昭和 4 年度中に時ロールより米突ロールに變更せられる品
種寸法並に變更せられる時期が決定した、之は從來發表せられてゐた米突化の豫定を多少變更した點があるので特に
下に掲載する。猶注文引受時期に關しては都合に依つて豫定より 1、2 ケ月の相違を生ずる虞があるから、確定の都
度更に改めて發表することにした。

品 種	標準寸法 t×A×B	舊 寸 法 A×B	所 屬 工 場	注文引受 豫定積月	品 種	標準寸法 t×A×B	舊 寸 法 A×B	所 屬 工 場	注文引受 豫定積月	
不等邊 山 形	6	×90×75耗 3½×3吋	第2中形	4年10月	工 形	10×300×150	12×6	第3大形	5年1月	
	9				"	×100×75	4×3	第4形鋼	5年2月	
	12				"	5×125×75	5×3	"	"	
"	7	×100×75 4×3	"	"	"	515×0×75	6×3	"	5年3月	
10	"				"	"	"	"	"	"
13	"				"	"	"	"	"	"
"	6	×75×50 3×2	第1中形	4年12月	不等邊 山 形	9	×150×90 6×3½	第2大形	5年5月	
8	12									
10	15									
"	6	×75×65 3×2½	"	"	"	9	×150×100 6×4	"	"	
8	12									
10	15									
"	7	×125×75 5×3	第4形鋼	4年11月	工 形	8.5×150×125	6×5	"	"	
10	9				×350×150 14×6	第3大形	5年8月			
13	12									
"	7	×125×90 5×3½	"	"				"	10	×400×150 16×6
10	12.5									
13	11				×450×175 18×7	"	"			

定期契約更改 懸案中であつた當所定期契約は 5 月 29 日東京出張所に於て 4 社及間屋側と大要下記の條件にて
協議を遂げた。

1. 數量に就ては間屋側よりは、全く危險率を含まぬ月額 1 萬吨の提案があつたが、當所としては定期契約の機能と
市場向賣出の比率も考慮し前年より 1,800 吨減の 1 萬 5,000 吨を下の要領により割當てることとした。

	1 大形	½大形	1 中形	2 中形	½小形	3 小形	線材	1 中板	2 中板	合計	
市場向能力	3,000	2,900	1,800	3,000	2,800	7,000	1,000	800	1,500	23,800	
内 譯	先物	1,000	1,000	800	1,000	1,000	2,000	500	500	8,800	
	甲種定期	三井	—	—	—	—	3,850	500	—	—	4,350
		三菱	2,000	1,900	—	—	—	450	—	—	4,350
		安宅	—	—	—	—	1,800	550	300	500	3,150
		岩井	—	—	1,000	2,000	—	150	—	—	3,150
計	2,000	1,900	1,000	2,000	1,800	5,000	500	300	500	15,000	

但し各工場を通じて 2 割減申込差支なきこと。

2. 期間は本年 11 月渡より開始、向ふ 6 ヶ月とす。

但し買手の希望により満期 3 ヶ月以前に協議の上繼續すること。

3. 割引率は従前の通り。

4. 定期及先物の積出は受渡月を 2 ヶ月とし猶 1 ヶ月以上積出遅延のもの生じたる場合には其全部或は一部たると
を問はず解約又は引取は買手の自由たることゝの申出があつた。

5. 先物値段の建方に於ける決定の標準は現行通りとし、時書提出及値段決定は従前より1ヶ月繰下げて渡月の3ヶ月前とした。

東西市況—沈滞 中心勢力の丸鋼が日一日と押気味なのに連れて他鋼材も軟調に傾いて居るのは事實ではあるが、それよりもやれ増産、やれ生産過剰と一般の人氣を恐怖させる材料が流布して居るので目先に對し脅え氣味となり、其が爲市中は勿論實需家筋も極端に買控へられ、殆んど其日暮しの手當しかせない故來勘に入つてからも荷動き至つて鈍く、全般に人氣腐れとなつた模様である。

東京市況

丸鋼 細丸中 12m/m は例の官民協調が何時までも不鮮明なのに痲痺を切りし、今旬に入つてから一舉に下入れ模様となつたのが目を引く、ベース物の漸落未だ止まず買氣も付かず目先の期待も頼み薄の様で只中丸以上が僅かに下支へて居るのみである。

角平鋼 角は 15m/m までは西の伸鐵物の入荷により引き續き軟調であるが 19m/m 以上は品薄により戻りと云はれて居る。平の入荷は其後大した事はないが、全般に行き至つて居ると氣配に押されて敲かれ氣味と云はれて居る。

型鋼 中型等山は西安の影響未だ止まず、兎角押されて鈍調となり、大型物は先高と見られて居る、不等山は區々、溝工共特別の變化もなく推移して居るが、溝の 2½×8, 4×8 が品薄を呼び 3½×10 が先行を期待され、工の 6×12 が強調である等弗々と面白場面を見せ、棒鋼よりは波瀾に富むことを偲ばせる。

鋼板 1.6×3×6 は未だ入荷を見ぬ爲上伸し、3.2×4×8 は當所品、5×10 は外注の共に入荷により緩和されたるも未だ高値のまゝに保合つて居る。

大阪市況

丸鋼 在庫の數量は大して驚くべきものでもないが怖氣付いた市場の軟勢は何時停止するとも見えず、ベース物特に弱く早や 9 圓を豫期されて居る程である。

角平鋼 角の内今迄比較的取り残されて居た 32mm 38m/m が品薄に引き締り其他不變戻り、平は丸鋼のお招伴に低落の一路邁進と云ふ有様で、斯ふ氣配が軟化しては最早原價とか採算とか口に出す者もないと云はれて居る。

型鋼 等山の 2"-4" の大阪在庫は約 2 萬噸と稱せられ爲に丸鋼同様またも落潮に傾むき大型等山及不等山は無難に推移し、需要も相當ある模様で只 12×4×6 が當所品の入荷により一氣に反落したのが目を引く、溝工共區々ながら先づ良好と云ふべく需要の偏倚により時に變化ある騰落を繰り返して居る。

鋼板 不相變の品薄に人氣を呼び只 4.5m/m 以上は入荷氣構に冴えないと云はれて居る。

東京大阪市中相場 {東京 5月30日 大阪 5月25日

丸鋼		等邊山形鋼				工形鋼			
	東京	大阪	m/m	m/m	m/m	東京	大阪	東京	大阪
6m/m	10.20	10.00	9×75×75	9.40	9.00	0.36"×5"×10"	9.60	9.20	
9	10.00	9.80	9×130×130	9.70	10.30	鋼板			
12	9.70	"	12×130×130	"	"	1.6m/m×3'×6'	14.00	14.80	
19	9.50	9.35	15×150×150	9.80	10.20	1.6×4×8	11.70	11.70	
25	"	"	不等邊山形鋼			3.2×4×8	12.80	13.50	
50	10.20	11.00	¾"×2"×3"	10.20	9.60	3.2×5×10	12.00	11.60	
65	10.30	10.70	¾"×3×4	9.60	9.80	6.0×4×8	12.00	12.20	
角鋼			¾"×3½×5	10.10	10.70	6.0×5×10	"	11.80	
9m/m	10.80	10.50	¾"×4×6	9.70	9.70	9.0×4×8	11.30	11.30	
12	11.20	10.20	½"×4×6	9.80	10.50	9.0×5×10	11.00	11.00	
15	11.00	"	溝形鋼			薄鋼板(13枚)			
19	"	10.50	¼"×2"×4"	11.30	10.30	米	71	71	
38	10.60	10.00	0.312×2½×5	9.90	9.70	英	70	70	
平鋼			¾"×3×6	10.20	10.00	八幡	69.5	69.5	
¼"×1½"	9.80	9.50	¾"×3×8	10.10	9.60	米	{170lbs	23.20	22.30
¼"×2	"	"	¾"×3½×10	11.00	11.10	{100	12.80	12.30	
¼"×3	"	9.60	¾"×3½×12	15.00	16.00	{170	22.70	21.40	
¾"×4	9.90	10.10	工形鋼			英	{100	12.10	11.80
½"×4	"	10.40	¼"×3"×6"	9.80	9.20	{100	22.70	21.90	
等邊山形鋼			¾"×6×12	10.70	11.00	八幡	{100	12.10	12.00
m/m	m/m	m/m	0.28×4×8	9.50	9.20	線材			
6×50×50	9.80	9.90	0.35×5×12	10.50	11.20	No. 5	102	95	
6×65×65	9.40	9.20							

備考 單位 100 疋につき (置場渡値段) 但し薄板は 1 枚當り。線材は 1 噸當り。鋳力板は 1 箱當り。

5 月下旬線材、薄板、鉄力板、輸入速報

港 別	線 材				薄 板		鉄力板	
	B. W. G. No. 5	其他	計	5 月中計	0.7 耗以下	5 月中計	5 月中計	
神 戸	3,276	1,041	4,317	11,611	778	2,562	680	1,977
横 濱	1,922	61	1,983	2,541	674	1,941	908	3,530
計	5,198	1,102	6,300	14,152	1,452	4,503	1,588	5,507
5 月中計	12,040	2,112	14,152		4,503		5,507	

備考 神戸自 18 日至 27 日、横濱自 17 日至 26 日。

昭和 4 年 4 月棒鋼寸法別揚地別引渡高表 單位吨

區分	丸 鋼					丸 鋼													
	民間向普通鋼		官廳向及規格品並特殊鋼			民間向普通鋼		官廳向及規格品並特殊鋼											
寸法	阪神揚	京濱揚	其他	計	阪神揚	京濱揚	其他	計	合計	區分	阪神揚	京濱揚	其他	計	合計				
6m/m	20	166	22	208	—	14	—	14	222	200	—	—	—	—	2	2			
6.5	—	—	—	—	—	—	1	1	1	計	2,574	5,316	505	8,395	150	196	390	736	9,131
8	224	203	92	519	—	—	—	—	519	角 鋼									
9	691	3,301	128	4,120	—	—	7	7	4,127	12m/m	60	40	15	115	—	—	1	1	116
9.5	—	—	—	—	—	—	2	2	2	22	6	—	—	6	—	—	2	2	8
10	—	—	—	—	—	—	10	10	10	28	—	6	—	—	—	—	—	—	6
11	120	36	56	212	—	—	1	1	213	30	—	—	—	—	—	—	2	2	2
12	997	923	191	2,111	—	—	4	4	2,115	32	—	10	—	10	—	—	—	—	10
13	—	—	—	—	—	—	1	1	20	36	1	—	—	1	—	—	—	—	1
15	—	—	—	—	—	1	19	20	20	38	50	29	51	130	—	—	20	20	150
18	—	—	—	—	—	1	4	5	5	44	16	13	—	29	—	—	—	—	29
19	—	—	—	—	—	—	5	5	5	50	6	15	10	31	—	—	3	3	34
20	—	—	—	—	—	—	1	1	1	55	3	—	—	3	—	—	—	—	3
21	—	—	—	—	—	—	4	4	4	60	1	—	—	1	—	—	—	—	1
22	—	—	—	—	—	1	92	93	93	65	10	—	5	15	—	—	3	3	18
23	—	—	—	—	—	—	19	19	19	70	4	—	1	5	—	—	—	—	5
24	—	—	—	—	—	2	6	8	8	75	4	85	—	89	21	15	12	48	137
25	—	—	—	—	—	1	2	3	3	80	2	3	3	8	—	—	—	—	8
26	—	—	—	—	—	2	2	2	2	90	5	—	—	5	—	—	—	—	5
27	—	—	—	—	—	1	1	2	2	100	36	—	—	36	350	3	84	437	473
28	—	—	—	—	—	1	10	11	11	110	—	—	—	—	—	2	2	2	2
30	—	—	—	—	—	—	6	6	6	120	—	—	—	—	—	19	19	19	19
31	—	—	—	—	—	3	3	6	6	130	—	—	—	—	—	17	17	17	17
32	—	—	—	—	—	—	19	19	19	150	—	—	—	—	—	3	3	3	3
35	—	—	—	—	—	—	1	1	1	角鋼計	204	201	85	490	371	18	168	557	1,047
36	—	—	—	—	—	3	6	9	9	平 鋼									
38	—	—	—	—	—	—	16	16	16	3/4"	218	148	2	393	—	—	—	—	393
40	—	—	—	—	—	—	24	24	24	7/8	231	133	96	463	—	—	15	15	418
42	—	—	—	—	—	—	3	3	3	1	524	482	125	1,131	—	—	5	5	1,136
44	—	—	—	—	—	—	7	7	7	1 1/4	420	217	59	696	—	—	20	20	716
45	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1 1/2	213	5	41	259	—	—	—	—	259
46	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1 3/4	273	100	21	394	—	—	—	—	394
47	—	—	—	—	—	—	11	11	11	2	3	8	6	17	—	—	13	1	30
48	—	—	—	—	—	—	7	7	7	2 1/4	87	95	3	185	—	—	—	—	185
50	11	210	—	221	—	—	12	12	233	2 1/2	209	178	15	402	—	—	10	10	421
55	3	73	—	76	—	—	—	—	76	2 3/4	1	—	—	1	—	—	3	3	4
60	4	25	—	29	—	—	—	—	29	3	199	313	89	601	—	—	15	15	616
65	210	171	16	397	—	16	4	20	417	3 1/8	2	—	—	2	—	—	—	—	2
70	98	57	—	155	—	—	2	2	157	3 1/2	152	20	10	182	—	—	4	4	186
75	27	—	—	27	—	1	30	31	58	3 5/8	145	33	—	183	—	—	—	—	183
80	133	68	—	201	—	—	—	—	201	4	78	72	27	177	—	—	17	17	194
90	4	70	—	74	5	3	—	38	112	4 1/2	1	—	—	1	—	—	—	—	1
95	—	10	—	10	—	—	—	—	10	5	57	70	13	140	—	—	23	23	163
100	32	3	—	35	145	—	12	157	192	平鋼計	2,816	1,878	533	5,227	—	—	125	125	5,352
115	—	—	—	—	—	—	1	1	1	總計	5,594	7,395	1,123	14,112	521	214	183	1,413	15,530
125	—	—	—	—	—	—	148	148	148										
150	—	—	—	—	—	—	1	1	1										

備 考 1. 鍛成品を含まず 2. 自家用品は官廳向に含む

昭和4年4月中當所品種寸法別生産高表 單位噸

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
條鋼ノ部	10437	丸	55	38m/m	175	75m/m	2,092	m/m	200	3.0m/m	43	1/4"	24	8.0m/m	270	11	鋼塊
6	247	38	4	90	931	90	931	計	5,163	3.175	4	5/16	16	9.0	260	1,840	普通鋼塊
9	3,978	44	68	100	385	100	385	Z形	鋼	3.2	1,453	1/2	33	11.0	34	17,839	電氣爐鋼塊
10	9	50	345	130	1,750	130	1,750	100x50x40	208	3.5	7	3/8	28	7.0	3	111,133	鋼塊
11	234	計	345	不等邊山形鋼	6,372	不等邊山形鋼	6,372	150x80x70	10	3.65	8	5/8	55	10	7	112,028	鋼塊
12	2,542	平	806	50x35	83	50x35	83	150x75x65	183	4.0	141	3/4	27	12	50	100,193	鋼塊
13	29	1 3/4"	891	65x50	26	65x50	26	計	401	4.5	902	7/8	23	13	13	4,013	鋼塊
14	2	1 1/4"	1,178	80x60	52	80x60	52	球山形鋼	鋼	4.8	8	1 1/8	2	13	63	1,582	鋼塊
15	52	1 1/2"	924	90x60	607	90x60	607	5" x 2 1/2"	14	5.2	93	1 1/8	2	13	50	1,989	鋼塊
16	87	1 3/4"	149	3x2 1/2	602	3x2 1/2	602	計	20,050	5.5	23	1 1/2	2	13	13	3,571	鋼塊
17	1	2	326	3 1/2 x 3	694	3 1/2 x 3	694	條鋼合計	35,403	6.0	46	2	2	13	13		
18	37	2 1/4"	405	4 1/2 x 3 1/2	23	4 1/2 x 3 1/2	23	鋼板ノ部		7.5	649	3	2	13	13		
19	103	計	4,512	5 1/2 x 3	11	5 1/2 x 3	11	0.7m/m以下鋼板		8.0	1,446	4	2	13	13		
20	1	六角	1	6x3 1/2	382	6x3 1/2	382	B.W.G.No.		9.0	290	5	2	13	13		
21	22	5.21	1	6x4	1,618	6x4	1,618	鋼板合計	17,904	10	290	6	2	13	13		
22	119	5.96	2	計	4,286	計	4,286	0.7m/m以下鋼板		11	203	7	2	13	13		
23	11	7.06	3	溝形	鋼	溝形	鋼	B.W.G.No.		11	1,300	8	2	13	13		
24	11	8.16	5	175x40	186	175x40	186	33	180	12	275	9	2	13	13		
26	1	9.16	11	100x50	66	100x50	66	31	189	12	275	10	2	13	13		
30	1	1.006	13	3" x 1 1/2"	128	3" x 1 1/2"	128	29	1,104	13	288	12	2	13	13		
31	3	1.096	18	3 1/2 x 2	143	3 1/2 x 2	143	13 sheets	760	14	24	14	2	13	13		
38	188	1.196	5	5 x 2 1/2	512	5 x 2 1/2	512	7	67	16	367	17	2	13	13		
39	2	1.296	5	6 x 3	411	6 x 3	411	0.5m/m	2,540	17	47	17	2	13	13		
40	82	1.386	11	8" x 3"	691	8" x 3"	691	計		18	16	18	2	13	13		
42	17	1.476	1	9 x 3 1/2	213	9 x 3 1/2	213	0.7m/m 鋼板		19	396	19	2	13	13		
44	62	計	57	10 x 3 1/2	1,150	10 x 3 1/2	1,150	0.7m/m 鋼板		20	2	19	2	13	13		
45	14	八角	2	12 x 3 1/2	3,814	12 x 3 1/2	3,814	B.W.G.No.		21	94	20	2	13	13		
46	17	26m/m	2	計		計		19	2,540	22	178	20	2	13	13		
48	14	計	2	工形	鋼	工形	鋼	1.0	3	22	2	2	13	13	13		
55	256	鋼板合計	15,353	3" x 3"	88	3" x 3"	88	1.2	1	26	4	2	2	13	13		
65	644	型鋼ノ部		7 x 4	440	7 x 4	440	1.4	1	28	4	2	2	13	13		
70	317	等邊山形鋼	53	8 x 5	139	8 x 5	139	1.5	1	30	4	2	2	13	13		
80	292	35m/m	104	9 x 4	376	9 x 4	376	1.6	5	32	4	2	2	13	13		
90	595	45	240	10 x 6	481	10 x 6	481	1.8	8	32	27	3	2	13	13		
100	87	50	382	16 x 7	556	16 x 7	556	1.85	3	32	42	3	2	13	13		
110	74	65	435	20 x 7 1/2	1,250	20 x 7 1/2	1,250	2.0	3	32	42	3	2	13	13		
115	12	計	10,437	計		計		2.3	3	32	285	3	2	13	13		
120	63	鋼板合計	15,353	鋼板ノ部		鋼板ノ部		2.4	3	32	36	3	2	13	13		
125	289	型鋼ノ部		等邊山形鋼	53	等邊山形鋼	53	2.5	3	32	36	3	2	13	13		
計	10,437	鋼板合計	15,353	鋼板ノ部		鋼板ノ部		2.6	3	32	40	3	2	13	13		

外國爲替市中相場

區分\月日	May 20	21	22	23	24	25	27	28	29	30
日 英	$\frac{1}{16}-\frac{3}{32}$	$\frac{1}{16}-\frac{1}{16}$	"	$\frac{1}{16}-\frac{1}{32}$	$\frac{1}{16}-0$	"	$\frac{9}{1}-\frac{31}{32}$	$\frac{1}{16}-0$	"	$\frac{9}{1}-\frac{31}{32}$
日 米	$44-\frac{1}{16}$	$44-\frac{5}{8}$	"	$44-\frac{9}{16}$	$44-\frac{1}{2}$	"	$44-\frac{7}{16}$	"	"	$44-\frac{7}{16}$
日 佛	11.30	"	"	"	11.25	"	"	"	"	"

備考 日佛のみ正金建値。

販賣旬報 第94號 昭和4年6月11日

ドルマン、ロングの型鋼工場を訪ふ 海外便り (第6便) 英國ミドルズブルクにて 鈴木參事

(1) ドルマン、ロングのセクションは世界の建築、土木工作界を征服した。其の型録は世界の隅々に至る迄行き渡り、學校に於ては最も恰好なる教材となり、斯界の設計者は申す迄もなく、之に關係する技術者商人の何人もが、この1本を座右に備ふるに非ざれば、其の日の仕事が出来ぬと言ふ程度迄に其の勢力を扶植したことは最近に至る迄の事實である。之に對して、大陸並に米國が各自獨特の立脚點を求めて之に對抗し、最近日本迄が標準規格の實施に依つて漸く英國の支配權から獨立せんとし、ドルマン、ロングのセクションが統治する領域は著しく狭められては來たけれども、英國が現に有する世界各地に於ける自己の殖民地は今尚ほ完全なる此のセクションの領域であるのみならず、久しきに亘つて世界に君臨した勢力の餘光は近き將來に於て消え去るべしとは思はれない。

(2) 此の工場の設備其の他に就ては技術眼なき余輩の論評し得る處ではないが、素人的觀察眼に映じたる範圍に於ては、間斷なき改造乃至、補修が逐次に行はれつゝあると言ふの外、必ずしも學ぶべき多きを有たぬものゝやうである。日産中大型を合せて1,000 噸と言ふのが最近の數字であると言ふ。厚み1吋以上邊10吋以上の山形鋼、高さ30吋に近い工形鋼が灼熱の火を吐いてロールを離るゝ有様は遺憾ながら母國に於て見ることの出来ぬ壯觀である。吾等の羨望に耐えぬのは、斯くの如き大型の型鋼が、其の之を消化し去るべき市場に關しては何等の考慮を拂ふ必要なく製作し得ると言ふのである。賣れ残りのストックは常時3,000 噸を上ることがないと言ふから、斯る灼熱的作業を爲しつつ、しかも僅か3日分に相當する在庫を抱くに過ぎぬのである。僅か數百噸の8吋山形鋼の消化に一年の月日を費した母國の市場と對比して轉た感慨に耐えぬものがある。

(3) 生産工場の合理化運動と言へば六ヶ敷しくなるけれども、證じつむれば、其の工場をして、其の製品を極めて安易に消化し得る市場の上に立たしめると言ふ事の外にはあるまい。斯かる市場は社會の要求を如實に其の工場に傳えて、獨りで之を改造し之を合理化して行くからである。大陸並に米國の企業的獨立に依つて英國の型鋼工場が有せし市場は著しく狭められては來たものゝ、英本國乃至其の廣汎なる殖民地の需要界は、なほこれらの工場を維持し改造し合理化すべく充分なる餘力を有つと見て宜いであらう。續つて吾等の大型工場を見る、軌條、1大形、2大形、3大形及第4型鋼の5大型工場を、哺育すべき國內市場の勢力としては、5年後の豫想に於て重軌條30萬噸、大型鋼18萬噸より多くを見積ることは困難であらう。彼我相對照して深慮すれば、吾等は5大型工場の將來に關する極めて重大なる問題に直面しつゝある自分を發見せねばなるまい。(4月5日)

本邦重軌條の需要は將來如何に變化するか

1. 鵬程萬里の波を蹴破つて夥しい重軌條を歐米の彼方より運び來つた大船巨船が我輸入港頭に威容を誇つたのも今は昔の語り草となり、昨今は通關するもの寥々たる曉天の星よりも稀なるに引換へ、外註防遏の旗幟高く掲げて邁進した本所生産高の増進振り鮮かに本年度の如き實に22萬噸の龐大なる生産計劃を實施するの盛觀を示してゐる。従つて輸入殲滅の今日、本所生産の目標も亦自ら外註防遏より轉換して需要總數量如何に注がれる様になるであらう。敢て2、3の統計を羅列し、軌條の空論をなすの所以である。

2. 本邦に於て將來果して重軌條需要總數量が増加するか。増加するとすれば其率如何。之に對して先づ需要の内容を次の3者に分解して考察することとする。

(1) 軌條の大型化に依る需要増加、我國鐵道の幹線が60封度より75封度に移り、やがて100封度に變りつゝあることは、需要増加の無視すべからざる要素をなすもので、今後貨物の運輸が鐵道の利用を益々必要とする限り、一定期間内の列車の軌條通過噸數の増大、従つて軌條の大型化は避くべからざる型勢と云ふべきであらう。次記は最近3ヶ年の重軌條の實績である。(市電用軌條を省く)

年次	需要噸數	同上哩數	1哩當り平均重量
昭和元年	184,600	1,740	106
2年	203,900	1,780	114
3年	184,800	1,590	117
年次	我國の國有鐵道地方鐵道及軌道を全部單線に直した時の總延長哩數(年度末統計)		同年中の新設總延長哩
大正10年	15,900哩		700哩
11年	16,800		900
12年	17,900		1,100
13年	18,800		900
14年	19,600		800
昭和元年	20,500		900
2年	21,300		800
3年	22,200		900

(P) 鐵道新設による需要、果てしなき文化の向上が鐵道の發達を促して已まぬものならば、過去に於て行はれて來た如く將來に於ても年々鐵道の新設がなされて行くに違ひない。左に掲ぐる如く近年の新設哩數は約8,900哩を上下し、年間軌條需要の過半は之に費されてゐることゝなる。

(ハ) 線路改造用としての需要、軌條は列車の通過其他の原因に依つて常に磨滅、毀損、腐蝕し或は通過噸數の増大によつて大きい軌條に替へる必要がある爲、線路は1部分宛新軌條にとり代へられて行く。我國に於ける軌條の壽命に就いては統計上の數字ではないが、米國の25年に對し、我國では濕氣、海岸、勾配等の多い關係上20年位と見るべきではなからうか。假りに20年とすれば20年前の新設及改造用

軌條數量は大體に於て20年後の改造用需要となつて表れるであらう。而して新設鐵道が時に減少の形勢を示す事ありとするも、苟も總延長に於て年々増加する限り、改造用としての需要は只増加の一途にありと斷ずることが出来る。

以上を要するに今後も従前と同様に新設が行はれて行く限り軌條需要は決定的に増加の趨勢を辿る。其數量並に増加率如何は數學上の計算によつて複雑なる級數となつて示されるであらう。

3. 需要數量並に増加率の算出は之を數學者に譲る。此處に於ては過去に於てかくの如くして軌條の大型化が行はれかくの如くして新設用並びに改造用として需要せられた數量が、即ち過去の供給總數量となつて示されたものなるが故に、かくの如き需要の要素を前提とし、事實たる過去の供給實蹟を點檢し、之等を類推するならば本邦將來の需要傾向如何は自ら推斷し得ることゝなるのではなからうか。

下表は本所生産高及輸入高を合計した總供給高である。(45 封度軌條以上、輪移出高をも併せ含む)。第1表は各年供給高であるが、輸入の如何によつて極端な變動を示すが故に、4ヶ年毎の平均數量を第2表に掲げた。

第 一 表 (單位 1,000 噸)

年次	大正元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	昭和2年	3年
供給數量	114	92	79	57	50	101	107	150	129	89	202	181	150	155	196	213	201

第 2 表

平均年次	7,8,9,10年	8,9,10,11年	9,10,11,12年	10,11,12,13年	11,12,13,14年	12,13,14,15年	13,14,15,2年	14,15,2,3年
1ヶ年平均數量	119	143	150	156	172	170	178	189

凡そ一國經濟界の趨向に對し戰爭程重大なる影響を齎すものはあるまい、這般の歐洲大戰亂が恐らくは異常なる變化を軌條需要の上に齎したことを信ずるが故に、現在の需要傾向を定むる資料としては歐洲大戰前及大戰中を除外し専ら大戰後のみを考慮することゝした。第2表即ち之である。試みに第2表を圖表を以て畫けば其處に略定まれる傾向線の存在するを看取し得るであらう。其の傾向線は大正8,9年の交の12萬噸を基點とし1ヶ年略1萬噸を増加して現在に至れるものであつて、其傾向線は同時に將來の需要傾向を暗示するものと云ふべきである。鐵道發展狀況が今後10年間従前と異らざる狀況の下にありと假定すれば、我國重軌條需要30萬噸の名乘を上げる時は、恐らく昭和12,3年の前後にあるであらうと想察せられる。

4. 上述の推論は凡て將來の鐵道の發展が従前と同様ならばと云ふ假定に立脚した。従つて其假定の誤なきや否やは先決問題として考究すべき事柄であるが、其精密なる檢討は其の道の専門家に一任することゝし、此處では單に其假定の誤なきを推測せしむる2,3の統計を掲げるに止める。

將來の鐵道發展を阻止するものと目される第1は近時短距離鐵道會社を採算上不利ならしめつゝある自動車の發達である。第2は鐵道増設の結果、最早新設の必要なに至る鐵道飽和状態の出現である。

國別/區分	自動車總數	人口萬に付	(イ) 第1の問題の杞憂であるであらうことを推測する爲、世界最大の自動車所有國たる米國と日本とを比較すれば
日本内地	35,802輛	5.9輛	此の多數の自動車を有する米國が次に示すが如く、我國より遙かに濃厚なる密度を有する鐵道を擁し、然も其鐵道は最近數ヶ年次の如く總延長に於て毫も減退を示してゐない。(北米
北米合衆國	19,954,347	1,703.5	

合衆國鐵道營業哩數)

1922年	1923年	1924年	1925年	1926年
219,231哩	248,816	250,080	248,961	249,421

(口)他の條件を一先づ度外視し、單に其密度のみより我國鐵道を他國と比較するとき、我國鐵道が未だ飽和狀態と相隔たること遠く洋々たる前途あるを思はしめる。(1924年又は1925年の統計)

國別\區分	延長數哩	面積100平方 方に付	人口 萬に付	國別\區分	延長哩數	面積100平方 方に付	人口 萬に付
日本内地	10,884哩	4.6畝	2.9畝	佛蘭西	27,760	8.1	10.9
北米合衆國	248,961	6.9	58.2	獨逸	33,074	11.4	8.5
英吉利 (愛蘭を除く)	20,390	10.3	7.3	伊太利	10,244	7.1	4.1

(備考 參考統計書、鐵道統計、世界各國鐵道統計、列國國勢要覽、販賣部鋼材年報等)

5 月中主要鋼材 3 港輸入概觀——線材増加

品名\港	神戸	大阪	横濱	計	本年累計	3年1ヶ月平均
丸	926	1,073	2,342	4,341	45,623	3,184
角	418	83	177	678	3,071	423
平	555	325	868	1,748	7,286	1,281
等	34	15	721	770	11,311	1,380
不	43	1	174	218	1,975	226
溝	67	134	249	450	3,482	695
工	66	372	1,316	1,754	10,474	1,055
鋼板(0.7 耗超)	959	287	2,584	3,830	16,772	3,466
鋼板(0.7 耗以下)	2,923	280	2,236	5,439	39,477	16,780
鉞力	2,543	60	5,004	7,607	27,236	5,297
軌條	383	73	4,201	4,657	16,091	3,611
線材	13,057	836	3,584	17,477	64,926	12,703
シートパイル	819	—	946	1,765	11,991	1,743
鋼管	2,134	1,665	2,284	6,083	22,198	4,409
其他	1,024	30	1,232	2,286	14,842	2,150
計	25,951	5,234	27,918	59,103	296,755	58,403

總數量は前月より 5,000 噸以上の増加である、前月に比し減少した主要なものを拾つて見ると丸鋼の約 2,700 噸、等山の約 700 噸、シートパイルの約 2,400 噸、鋼管の約 800 噸である、反對に増加した品種は比較的多く工形、軌條、及 0.7 耗超鋼板の各約 1,000 噸、鉞力の約 2,500 噸、線材の約 5,000 噸等が目星しいものである。丸鋼の減少は當然豫期したことであるが、それでも細丸の輸入は未だ其跡を絶たず下記の通り相當數量の入荷を見せて居るが、特に横濱の%は甚だしいものである。

港\區分	1/4"	5/16	3/8	1/2	計
神戸	15	—	4	79	98
大阪	—	30	91	54	175
横濱	42	72	1,393	243	1,750
計	57	102	1,488	376	2,023

増加したものの内、鉞力は其主要なるものが實需家筋の手に渡る模様で市場には大した脅威とはなるまいと見られて居るが、只線材の阪神入荷約 1 萬 4,000 噸は大阪方面への打撃可なりのもので觀て居る筋が多い様である。薄板の輸入が此調子を以て進むと假定すれば、本年に於ける豫想する内地生産數量と對比して遠からず需給の調節を得て現在の不況から救はれる様判断せられるが、何にせよ何時も裏切られ勝ちな輸入相手のこと故大した期待も繋げられない。

副製品 3 年度契約高

一二を除いては大部分比較的順調な成績を挙げ得た當所 3 年度中の前製品外部向販賣數量は次の通りである。

モーターベンゾール、クレオソート油、並等鍍滓煉瓦等の賣上が前年度より減少したのは同年度中に過剩在庫品を賣り盡して 3 年度は供給量の不足を告げると云ふ好況を續けた事に主として原因せられて居る。

純ベンゾール	2,706 吨	アンストラシン	92 吨	並等鑛滓煉瓦	26,285,045 個
純トルオール	232	塗料用タール	13	異型鑛滓煉瓦	7,590
モーターベンゾール	4,984	舗道用タール	134	ターバラス	1,459 立米
100%ベンゾール	100	消毒薬	1	鑛滓バラス	3,467
ソルベントナフサ	890	クレゾール	151	鑛滓綿一級品	342 吨
製鐵テレメン油	96	石炭酸	83	同二級品	216
キシロール	11	良質ピッチコークス	1,056	同並等品	402
硫酸安母尼亞	14,869	有煙ピッチコークス	380	水鑛滓	50
ピッチ	19,701	精製瓦斯	1,969,013 立米	鑛錫滓	38
クレオソート油	11,131	高爐セメント	250,120 樽分	二等錫	15
粗製ナフサリン	1,500				

(備考 吨未満は四捨五入す)

東西市況——不變

其後の市況はこれと云ふて取立て、變化もなく軟弱の儘推移して居るが、一派の生氣が流れ初めたてはあるまいかと見られる節もある。即ち市中の荷動きは甚だ鈍い様に云はれて居るがそれは需要期節の期待と、入荷數量との相對的觀念から一層力強く叫ばれて居るので数字的に見れば月を追ふて増加して居る模様であるから手持の消化につれ押目の不安が除かれるに従つて立直りを豫期して居る筋もある。それに一時的にもせよ金解禁の不安が除かれたことが一般に好感を興へて地方筋の買氣もある様に見られるで少々幾分か氣をよくして居る模様である。

東京市況 丸鋼 不相變混沌たる有様でベース物または 10 錢揚みの下押しを見せた、細丸も至つて不人氣ではあるがベース物よりは底意の稍戻りして居るのを認められると云はれて居る。

角、平鋼 角は手持薄の爲相當耽りと呼んで居る、平は入荷が前々旬來稍緩漫とはなつたが然し未だ手持豊富で人氣は冴えない、只厚物は品不足を訴へ、 $3/4'' \times 1/2''$ や $2''$ が 13 圓を稱へ、 $7/8 \times 3$ が品切れを傳へられて強調である等波瀾を畫いて居る。

型鋼 問題の中型等山は市場でも匙を投げた模様で寧ろ悪いなりに平靜である。大型等山と不等は別段悲觀もされては居ないが現状は不味。溝形は強保合、只 2×4 と $3 \frac{1}{2} \times 12$ が異彩を放つて居る。工形は軌條工場寸法物強調を云はれて居る。

鋼板 峠は越したとは云へ未だ市場の花形たるを失はず、只 $3 \cdot 2$ が入荷により緩和せられ、 $9 \cdot 0$ がシーヤ物の注入によつて稍引き弛み氣味と見られ其他は高値のまゝ保合つて居る。

大阪市況 丸鋼 急落後の一服にベース 9 圓 35 錢と落着き、爲替の軟弱は先物高を豫想され當分此邊保合を續ける様觀察されて居る。賣行は稍見直したが仲間取引は閑散で主として地方筋向が多いと見られて居る。

角、平鋼 角は高値維持、別段の變化もなく凡調、平は軟弱商狀、賣行不振各寸法共當所品の出廻りよく在荷品揃の態

型鋼 中型等山の内特に目立つて安かつた 9×75 も其後確實に消化され 8 圓 90 錢を底として 9 圓 10 錢と引き締つた、其他保合、大型の等山、不等は實需引續き増加し強調とまでは行かざるも良好、溝形は 1 大型物軟弱なるも 2、3 大型物品拂底に強調、工形區々ながらも軌條物品薄 $18''-24''$ 強調。

鋼板 $3 \cdot 2$, $4 \cdot 5$, $2 \cdot 3$ は當所品入荷引延の爲復又品掠れを來たし $4 \cdot 5$ の如き 14 圓と上放れた、 $6 \cdot 0$ 以上不變。

旬報號外第 6 號中經濟噸數決定の件 昨年 12 月 19 日(昭和 4 年 6 月 8 日再版付販賣旬報號外 6 號にて定期及先物契約に於て引受くべき條鋼類の寸法に關する件に付發表せる第 1 種寸法に屬する工形鋼にして

「14 吋以上 24 吋以下のものは經濟壓延數量の半に滿ざる時は斷ることあるべし」とありし其の經濟噸數を當分の間 300 噸と決定した。

6 月上旬線材、薄板、鉄力板、輸入速報

港別	線材			計	薄板 0.7 耗以下	鉄力板
	B.W.G. No. 5	其他				
神戸	1,494	794		2,288	972	892
大阪	601	—		601	660	—
横濱	1,262	214		1,476	401	1,933
	3,357	1,008		4,365	2,033	2,825

備考 神戸自 28 日至 7 日、大阪自 27 日至 7 日、横濱自 27 日至 6 日

外國爲替市中相場

區分	May 31	Jun. 1	3	4	5	6	7	8	10
日英	1/9-15/16	1/9-27/32	1/9-25/32	1/9-1/2	1/9-1/16	1/9-9/16	1/9-5/8	1/9-1/16	
日米	44-3/8	44-3/16	44-1/16	43-1/16	43-7/8	43-5/8	43-3/4	43-7/8	
日佛	11.25	11.20	"	11.00	"	10.95	"	"	
備考	日佛のみ正金建値								

東京大阪市中相場

{東京 6月7日
大阪 6月5日

丸鋼	東京		大阪		等邊山形鋼		工形鋼		
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	
6 ⁿ /m	10.10	9.90	m/m m/m m/m	9×75×75	9.40	9.10	0.36''×5''×10''	9.60	9.20
9	9.80	9.80		9×130×130	9.60	10.30	鋼板		
12	9.60	9.70		12×130×130	9.70	"	1.6 ^m /m×3'×6'	14.00	14.80
19	9.40	9.35		15×150×150	9.80	10.20	1.6×4×8	11.70	11.50
25	"	"		不等邊山形鋼			3.2×4×8	12.50	13.50
50	10.20	11.00		3/8''×2''×3''	10.20	9.60	3.2×5×10	11.90	12.00
65	"	10.80		3/8 × 3 × 4	9.50	9.80	6.0×4×8	"	12.50
角鋼				3/8 × 3 1/2 × 5	10.00	10.50	6.0×5×10	12.30	11.80
9 ^m /m	10.80	10.30		3/8 × 4 × 6	9.60	9.70	9.0×4×8	11.30	11.30
12	11.00	10.10		1/2 × 4 × 6	9.70	10.00	9.0×5×10	"	11.00
15	10.80	10.20		溝形鋼			薄鋼板(13枚)		
19	"	10.70		1/4''×2''×4''	11.70	11.50	米	71	72
38	10.60	10.80		0.312×2 1/2×5	9.90	9.60	英	70	70
平鋼				3/8 × 3 × 6	10.20	10.00	八幡	69.5	69.5
1/4''×1 1/2''	9.90	9.40		3/8 × 3 × 8	10.00	9.60	鍍力板		
1/4 × 2	9.80	9.30		3/8 × 3 1/2 × 10	10.70	11.50	米 (170 ^{lbs})	23.20	22.30
1/4 × 3	"	9.80		3/8 × 3 1/2 × 12	15.00	16.50	(100)	12.70	12.50
3/8 × 4	9.90	10.20		工形鋼			英 (170)	22.50	21.80
1/2 × 4	"	10.40		1/4''×3''×6''	9.70	9.20	(100)	12.10	11.80
等邊山形鋼				3/8 × 6×12	10.50	11.20	八幡 (170)	22.70	22.00
m/m m/m m/m				0.28×4×8	9.50	9.20	(100)	12.10	12.20
6×50×50	9.70	9.90		0.35×5×12	10.80	11.50	線材		
6×65×65	9.40	9.20					No. 5 #	101	96

備考 單位 100 kgにつき (置場渡値段)、但し薄板は1枚當り。線材は1噸當り。鍍力板は1箱當り。

昭和4年5月分契約高 單位、噸、

區分	官廳小計		民間小計		5月中合計		本年度累計			
	噸數	金額	噸數	金額	噸數	金額	噸當	噸數	金額	噸當
大鋼	62	6,453	6,690	624,783	6,752	631,236	93.49	13,991	1,329,597	95.03
中鋼	18	2,839	6,028	597,433	6,046	600,272	99.28	12,572	1,245,523	99.05
小鋼	220	24,980	11,360	1,016,201	11,580	1,041,181	89.91	21,490	2,049,666	95.38
鋼板	1,097	199,432	10,075	1,008,646	11,172	1,208,078	108.13	20,853	2,192,157	105.12
重軌條及附屬品	116,043	11,755,077	11,654	1,135,574	127,697	12,890,651	100.95	132,098	13,329,739	100.91
輕軌條及附屬品	604	67,140			604	67,140	111.16	4,310	452,727	105.04
線材			3,765	366,445	3,765	366,445	97.33	8,340	810,455	97.15
黑板、珪素鋼板、鍍力板	8	2,121	3,443	678,220	3,451	680,341	197.14	11,577	2,181,874	188.47
車軸、外輪、鍛成品	281	75,417	390	87,041	671	162,458	242.11	917	223,474	243.70
工具鋼、特殊鋼				267		267		62	6,047	97.53
其他鋼材	4	437	19	1,803	23	2,240	97.39	585	52,110	89.08
鋼材小計	118,337	12,133,896	53,424	5,516,413	171,761	17,650,309	102.76	226,797	23,873,369	105.26
短尺及屑鋼	125	9,620	4,703	332,460	4,828	342,081	70.55	8,849	613,797	69.36
合計	118,462	12,143,516	58,127	5,848,873	176,589	17,992,389	101.88	235,646	24,487,166	103.92
鋼片、鋼塊、シートバー			9,410	676,898	9,410	676,898	71.93	18,997	1,389,613	73.15
以上計	118,462	12,143,516	67,537	6,525,771	185,999	18,669,287	100.37	254,643	25,876,779	101.62
副製其他		642,143		279,516		921,659			1,483,070	

三井鑛山商務部相場表

建値 昭和4年 月 日	豐前1等 塊炭 (若松 着噸)	左同 粉炭 (左同)	筑前1等 塊炭 (〃)	同 粉炭 (〃)	筑前2等 塊炭 (〃)	同 粉炭 (〃)	夕張 塊炭 (室 汽船乘)	級 炭 (蘭)	同 粉炭 (〃)	三池水 洗 コークス (パラ) (三池船乘)	MMC 亞鉛 (大阪倉 庫百斤)	亞鉛 未 (〃)	EMK 鉛 (〃)
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
5.25	13.00	9.75	12.50	9.00	11.25	7.50	14.00	10.50	20.00	現先 21.00 20.75	24.00	現先 15.80 15.80	
5.15	13.00	9.75	12.50	9.00	11.25	7.50	14.00	10.50	20.00	現先 21.20 21.00	24.00	現先 15.80 15.80	
6.5	13.00	9.75	12.50	9.00	11.25	7.50	14.00	10.50	20.00	現先 21.25 21.00	24.00	現先 16.00 16.00	
6.15	13.00	9.75	12.50	9.00	11.25	7.50	14.00	10.50	20.00	現先 21.25 20.90	24.00	現先 15.80 15.80	

昭和4年8月渡定期及先物契約數量表 單位、噸

寸法	噸數	本 年 累 計	寸法	噸數	本 年 累 計	寸法	噸數	本 年 累 計	寸法	噸數	本 年 累 計	寸法	噸數	本 年 累 計
丸	鋼		50	175	472	45	148	374	7×3	103	311	18×7	165	435
m/m			55	—	20	50	208	441	8×2½	160	321	20×7½	140	255
6	353	1,384	65	160	539	65	163	720	8×3	130	566	24×7½	225	511
8	331	1,210	75	105	517	75	122	988	8×3½	148	218	m/m m/m	200×100	90 516
9	3,615	11,662	90	80	395	90	60	225	8×4	95	200	230×100	50	5
11	50	180	100	—	77	100	122	317	10×3½	—	340	250×125	100	150
12	1,841	8,185	合計	1,270	5,088	130	282	2,057	12×3½	130	676	300×150	261	311
50	358	1,804	平	鋼		150	544	3,562	15×4	—	369	合計	1,651	4,380
55	250	945	¾"	307	972	200	2,217	100	m/m m/m	75×40	100	320	型鋼合計	9,143
60	—	160	⅞	219	774	合計	2,317	10,546	100×50	140	396	本年累計	37,272	
65	244	1,439	1	663	2,787	不等邊山形鋼			230×80	95	135	條鋼合計	22,455	
75	186	1,229	1½	807	2,878	3"×2"	100	660	230×90	—	45	本年累計	90,323	
90	66	410	1½	544	1,995	3×2½	150	837	250×90	355	47	鋼	板	
100	50	102	1¾	348	1,241	3½×2½	—	369	合計	2,202	8,453	m/m		
合計	7,344	28,710	2	744	2,748	3½×3	321	1,206	工	形	鋼	16	708	3,666
角	鋼		2½	128	1,748	4×3	419	1,618	4"×3"	60	410	23	282	1,439
m			3	283	2,100	5×3	417	2,329	5×3	50	100	32	759	4,430
12	153	554	3½	432	857	5×3½	545	3,193	6×3	75	263	45	246	1,360
15	157	653	3¾	131	701	6×3½	535	1,053	6×5	—	105	60	392	1,769
19	47	223	4	92	452	6×4	526	2,623	8×5	90	140	8	25	182
22	—	75	合計	4,698	19,253	合計	3,013	13,893	8"×6"	—	89	9	63	544
25	103	331	棒鋼合計	13,312		溝	形	鋼	10×5	—	110	12	20	115
28	—	90	本年累計	53,051		3½"×2"	106	471	10×6	—	160	合計	2,495	13,505
32	113	336	等邊山形鋼			5×2½	229	1,293	12×5	80	80	鋼板合計	2,495	
38	131	555	m/m			6×2½	188	885	14×6	165	245	本年累計	13,505	
44	44	251	40	568	1,762	6×3	283	1,437	16×6	100	400	總合計	24,950	
			合計	7,344	28,710							本年累計	103,828	

昭和4年4月中國別輸入數量表(單位噸)

品 種	英	佛	獨	白	埃	和	典	合	關	印	其他	計	本年度計
條及竿鐵 <small>(丸、角及平形にして徑 過又は巾15m/mを超 えざるもの)</small>	362	307	2,214	1,201	7	279	48	57				4,475	22,671
〃 (丸、角、平のもの其他)	436	380	1,743	690	32	20	35	22			12	3,370	23,849
〃 (テー形及アングル形)	1,743	218	2,280	835						456	6	5,538	21,101
〃 (其 他)	673	309	4,548	447		20		611			149	6,757	23,352
レ - ル		73	1,746					1,459				3,278	11,822
フィッシュ、プレート			49									49	540
ワイヤローッド <small>(巻きたるものにして徑 5m/mを超えざるもの)</small>													4
〃 (巻きたるもの其他)	498	303	9,320	1,116	54		250	1,155			456	13,152	54,484
鋼板 <small>(金屬を鍍せざるものにして厚 0.7m/mを超えざる建築鋼板)</small>	191		241	50				790				1,272	3,503
〃 <small>(金屬を鍍せざるものにして厚 0.7m/mを超えざるもの其他)</small>	3,601		1,365					100			45	5,111	21,594
〃 <small>(金屬を鍍せざるものにして厚 3m/mを超えざるもの)</small>	36	10	794	263	20		17	360				1,500	7,121
〃 (金屬を鍍せざるもの其他)	2,559	109	615	338			3	235				3,859	15,315
〃 (錫鍍したる)(葉鐵及葉鋼)	1,399		19			46		5,089			26	6,579	26,281
〃 (亜鉛鍍したるもの)			9					127			43	179	503
〃 (其他卑金屬を鍍したるもの)	6		117	40			2	350				515	1,940
鐵 線	38		86	27			14	100			1	266	1,311
リード、ワイヤ	2										1	3	18
鐵 リ ボ ン	73	18	312	5			20	51				479	1,791
帶 (籠 鐵)	189	51	3,920	223				14			18	4,415	12,670
パラゴン、ワイヤ	19						5	1				25	70
線 索	27							5				32	127
撻 合 線		2						1				3	53
パーブド、ツイスト、ワイヤ													
鐵 筒 及 管	423	420	1,556	450			5	4,285	2			7,141	18,483
特 殊 鋼(稅表一)	31		22		30		1	17	7			143	523
〃 (稅表二)	6		14		26		11					57	249
鐵道車輛用車輪及車軸								49			1	50	129
鐵道車輛用タイヤ	47		21	59								127	307
鐵道車輛用スプリング													
合 計	12,359	2,200	30,991	5,744	169	365	411	14,878	9	456	793	68,375	279,811
フエロ、マンガニース	254		23									277	674
フエロシロン及 シリコスピーゲルアイゼン			2				10				56	68	149
其他の不可鍛成鐵合金			11				14					25	98
シートバー(ティンバーを含む)		1,035	4,417	4,235				3,912		437	905	14,941	49,229
インゴット、ブルーム、 ピレット○スラップ		335	1,991	420				9		179		2,937	12,141
ケツグスチール及パンプスチール	1		5		3		90					96	365
其他の塊及錠鐵													
合 計	255	1,370	6,449	4,655	3	114	3,921			616	961	18,344	62,656
銑 鐵	589		3,103						15,498	41,261	916	61,367	250,775
屑 及 故 鐵	4,168	891	87					12,220	57	19,498	7,056	48,977	152,464